2019年度　　県立水戸高等特別支援学校　自己評価表　　［別紙様式２］

目指す学校像	○　就労を目指し，自己実現のできる学校 ○　無限の可能性へチャレンジできる学校 ○　成長する喜びを感じ，感動できる学校 ＜２０１９　スローガン＞ 『【自立・挑戦・貢献】笑顔でいこう！超えていこう！　』 KOUTOKUスタンダード 『 Keep on Smiling 』 ＆ 『 Be a role Model 』＆ 『 Only one in Japan 』 （笑顔でいこう）　（お手本になろう）　（日本でただひとつ）

昨年度の成果と課題	重　点　項　目 （学校組織目標）	重　点　目　標	達　成　状　況
・専門教科における指導内容・方法の見直し等の検討を，各コースやコース主任会で検討してきたが，検討委員会において広く意見を取り入れて検討していく必要がある。 ・自立活動の指導力向上に向け，自立活動の視点を取り入れた授業実践を行い，生徒の意見を取り入れたＴＯ　ＢＥ　シートを作成した。今後，シートの活用と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善，ＩＣＴを活用した授業実践が課題である。	１　将来の社会生活・職業生活を見据えた体系的な教育の推進　【自立】	①　卒業後の視点を踏まえたカリキュラムマネジメント ・専門教科における指導内容・方法の見直し・改善 ②　職業生活に必要な知識・技能の確実な習得 ・各種資格取得や技能検定への挑戦 ③　新学習指導要領を踏まえた授業づくりの推進 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくり ・ＩＣＴを効果的に活用した授業づくり ・自立活動指導力の向上（ＴＯ　ＢＥ　シートの効果的活用）	A
・「歩く会」「集団行動・カラーガード」「クラスマッチシリーズ」「光陽祭」等の感動的な活動をとおして，自己肯定感，自己有用感の育成を図る必要がある。 ・ゆめ国体，ゆめ大会へ向けた部活動（運動部）の充実に力を入れるとともに，国体後に向けて，部活動の再編に向け，検討委員会での検討が必要である。 ・働き続けるために，卒業生の支援も事業所や各地域の障害者就業・生活支援センターと連携して行っていく必要がある。 ・受検倍率が過去最低を記録し，今後，受検者確保に向けて，小学校など早い段階からの学校見学や，必要に応じて個別に中学校へ学校訪問するなど，積極的な広報が必要である。 ・コーディネーターによる小・中・高等学校への継続した支援が必要である。	２　社会に開かれた魅力ある教育の推進と積極的な情報発信　【挑戦】	④　オンリーワンの取組の充実 ・ＮＩＥの実践他 ⑤　進路指導の充実 ・事業所との連携強化 ⑥　魅力ある部活動の推進 ⑦　教育活動の積極的な広報 ・ホームページの充実 ・小学校段階からの学校見学案内 ・リーフレットのリニューアル ・イメージビデオの作成 ⑧　センター的機能の強化	A
・光陽祭での募金活動や，専門教科における地域との関わりをとおして，生徒が周囲から必要とされる経験を増やして，自己肯定感，自己有用感の育成を図っていく必要がある。 ・寄宿舎において「生活スキル検定」に全員が取り組み，自己管理能力の育成を図っている。マイタイムの活用も含め，定着に向けた取り組みも必要である。	３　協力し合う心や自律心など心豊かな人間性と社会に貢献する心を育てる教育の推進　【貢献】	⑨　ボランティア活動の充実 ⑩　寄宿舎における生活技術の獲得と生活力の定着 ・生活スキル検定の充実 ・マイタイムの充実 ⑪心のバリアフリーを目指した交流及び共同学習の推進	A
・年間をとおして，様々な想定で防災訓練を実施しているが，自宅周辺の避難場所を把握していなかったり，防災伝言ダイヤルの利用方法が徹底されていないなど，保護者も含めた防災意識の向上が課題である。 ・ランチタイム相談において，気になる生徒に積極的に声をかけたり，昼休みミーテイングにおいて，情報共有をこまめに行うなど，生徒の問題の早期発見，早期対応を図っている。今後も継続した取組みが必要である。 ・定時退勤日を実施するなど，働き方の改善を各自が意識し，残業時間も平均では減ってきているが，個人差があり更なる働き方の改善が必要である。	４　安全･安心･元気な学校づくりの推進	⑫　学校安全の充実 ・災害に応じたタイムラインの作成 ・安全教育の推進 ⑬　相談体制の充実 ・トーキングタイム・ランチタイム相談の活用 ⑭　一人一人に応じた生徒指導 ・ハートバランスシート，昼休みミーティングの活用 ⑮　主体的に健康管理できる生徒の育成 ⑯　教職員の働き方改善・コンプライアンス推進・チーム力向上	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価		課題及び次年度への改善策
総務部門 教務部	グランドデザインの実現に向け，各部門，学年と連携を図りながら，効率的な学校運営に努める。	経営企画会での検討と実施，部門間，学年間との連携,早期立案のための業務進行管理及び改善シートを活用した見直し改善	⑯	A	A	受検者数確保に向けた積極的な情報発信が必要である。 今年度から始めた訪問型学校説明会を，教育事務所単位から市町村教育委員会単位にするなど回数を増やしていく。
	基本研修や現職研修等を活用し，チーム力の向上を図るとともに，コンプライアンスの推進に努める。	授業研を活用した授業力の向上，人権研修や出張報告会，若手教員によるコンプライアンス及びチーム力向上のボトムアップ研修の実施	⑯	A		
	新学習指導要領を踏まえた教育課程を実施するとともに，個別の教育支援計画・指導計画の見直しと活用に努める。	自立活動の研究をとおした（ＴＯ　ＢＥシートの活用）教育支援計画等の見直しと活用，教育課程実施状況把握による教科用図書選定等を含めた教育課程の検討・編成，ＮＩＥの実践	②③④	A		
	卒業後の視点を踏まえたカリキュラムマネジメントに努める。	専門教科検討委員会における社会のニーズに合った専門教科の指導内容の検討，部活動検討委員会における国体後を見据えた部活動の精選	①⑥	A		
	受検者数の確保に向け，学校の情報発信の充実に努める。	本校の魅力を伝えるためのリーフレットやイメージビデオ，ホームページ，新聞掲載等の活用，対象者のニーズに応じた進路相談会及び学校説明会の工夫と開催	⑦	A		
		小学校段階での学校見学の実施，求めにより中学校へ訪問しての進路相談の実施	⑦⑧	B		
総合 支援部	校内支援の推進	トーキングタイム，ランチタイム相談の実施 校内支援会議，関係機関との支援会議,学校医との支援会議の実施 生徒の実態把握のための標準検査の実施	⑬	A	A	学校見学の案内を全県の小学校へも広げたことで小学生の参加が増えてきている。 来年度も継続して情報発信をして本校への理解を深めていく。
	特別支援教育のセンター的機能の促進と充実	学校見学の案内拡大，コース体験の実施 巡回相談の充実，ニーズに応じた支援への対応	⑦⑧	B		
	交流及び共同学習の促進	学校間交流，地域交流の内容の充実 ホームページ等を利用して活動の情報発信	⑦⑪	A		
	特別支援教育に対する理解啓発	チャレンジスポットの拡大，計画，実施 ホームページ等を利用して活動の情報発信	⑦⑪	A		
危機 管理部	防災教育の推進	マニュアルに基づいた避難訓練の実施 災害伝言ダイヤル等の体験活動の実施	⑫	B	B	様々な災害想定をした避難訓練を実施することができた。学校が避難所になったときの対応を検討する。
	防災管理の徹底及び組織活動の充実	防災倉庫内の整理整頓及び備蓄品の充実 災害に応じたタイムラインの作成	⑫	A		
情報 メディア 部	ＩＣＴ環境の整備	ＩＣＴ機器の活用を推進するための校内環境の整備（ネットワーク，タブレット端末数）	③	B	A	今年度の内容をさらに発展させたICTや情報モラルの研修会を実施し，生徒・教員のICT活用能力の向上を図る。 ＩＣＴ環境の整備については，端末数やアクセスポイント数を増やすとともに，周辺機器を計画的に整備する。
	ホームページの充実	閲覧する人が，見やすく，分かりやすく，知りたい情報を載せたホームページの作成 学校，校長ブログによる学校行事等の最新情報の発信，各分掌部の協力による情報提供	⑦	A		
	教職員・生徒のＩＣＴ機器の活用力向上	教員が授業で活用できるようにするための校内研修の実施	③	A		
		生徒が実態に応じて，情報関係各種検定を取得することができるよう支援	②	A		
	情報モラル，情報セキュリティの推進	生徒・教員の情報モラル・セキュリティに対する意識向上のための研修の実施	⑭⑯	A		
教育指導 部門 学習・ 研究部	教科指導等と連携を図った自立活動の充実	学校課題研究及び計画訪問等と関連させて実施 専門家による教職員向けの研修会の開催	③	A	A	自立活動の充実を図るために自立活動研修会を開催した。授業研究でも自立活動の視点を取り入れた授業をそれぞれが意識し，授業展開をすることができた。 今後は，新学習指導要領を踏まえた授業づくりを推進していく。 専門教科の見直し，改善では，専門教科検討委員会の開催と共に各コース内での物流的な内容（ICT等）を取り入れる。
		ＴＯ　ＢＥシートを活用した生徒本人への聞き取りと合意形成を行った合理的配慮の決定と目標の設定 チーム，学年による生徒の見取りと指導の改善と実施（チーム力の向上を目指した取り組み）	③	A		
		年間指導計画における各教科等の内容と「ジョブスタディ」の関連の明確化による，より実際的な学習指導の実施	②③④	B		
	NIEを活用した教育活動	NIEを活用した授業の実施	④	A		
	専門教科における指導内容，方法の見直しと改善ともに技能検定に向けた意欲の向上	指導内容の精選と就労を視野に入れたコースの見直し（定期的な検討会の実施，就労指導部との連携） 専門教科内での技能検定を想定した指導支援と外部講師を招いた指導の実施	①②⑤⑦	A		
	主体的・対話的で深い学びと授業改善，ＩＣＴの活用	主体的・対話的で深い学びの実践と学習活動のフィードバックと計画の見直し ICTの活用を推進するための校内環境の整備	③	B		
	働き続けるための体力の向上及び部活動の充実と見直し	保健体育科の授業の充実，部活動の検討と見直しを行う顧問会議の実施 自己実現できる芸術文化活動への参加（高文連等）	②⑥	A		
就労 指導部	将来的な自立と社会参加に向け，本人が主体的に自分自身の進路を自己選択，自己決定していくための指導及び支援の充実	事業所との情報交換をとおして，よりよい進路選択，決定を目指した学習活動の充実 （学習・研究部と連携を図り，専門教科における指導内容等の見直しや改善を図るための事業所側のニーズ等の情報提供）	①	A	A	よりよい進路選択，決定に向けた学習活動の充実に向け，事業所や専門高校の職員を招き専門教科を見直すための会議を開催した。今後も定期的な会議の開催を目指し，学習内容の見直し
		本人に適した進路先や業務内容の選択及び決定に向けた現場実習評価表等の活用方法の工夫	⑤	A		
		「進路の手引き（本校作成物）」を活用した就労（障害者雇用や職業生活など）に関する情報提供	⑤	B		
		生徒の実態や特性を踏まえた関係機関との連携による新規事業所（業務）及び職域の開拓	⑤	A		
	卒業生支援の充実	関係機関（生活支援センター等）との情報の共有や交換による卒業生への定着支援の実施	⑤	B		

		卒業生の「働き続ける」を支援するための就労先との更なる連携強化 （必要に応じた移行支援会議の実施）	⑤	A		改善に取り組んでいく。
保健 指導部	清掃用具の整理・点検，清掃の徹底	清掃用品の管理，購入（学期１回） 職員清掃の実施（毎週金曜日）	⑫	B	B	エアコン設置による湿度管理のため，教室への加湿器配置を検討する。 定期健康診断結果による受診率が６割に満たないため，担任・保護者と連携した事後措置を実施する。生徒の健康課題や調査結果に応じた食育・保健教育の充実及び実施時間を検討する。 生徒保健・給食委員会の活動内容の充実を図る（調べ学習や発表等）。
	主体的な健康管理を目指した保健教育の充実	熱中症予防の取組（ＷＢＧＴ予測値の掲示・生徒への周知及び保健体育科，部活動，学校医との連携）	⑮	A		
		生徒保健・給食委員会との連携（NIEを活用した委員会活動時の調べ学習，保健だよりの作成，学校保健・食育委員会への参加，集会等での発表等）	④⑮	B		
		養護教諭，担任，寄宿舎指導員，保健体育科職員と連携し，生徒の健康課題に応じた個別・集団への保健教育（性に関する指導，口腔衛生指導等）	⑮	B		
	健康診断事後措置の充実・受診率の向上	慢性疾患や食物アレルギーを有する生徒・保護者への健康相談の充実	⑬⑮	A		
		健康診断結果について，生徒用通知の工夫・活用	④⑮	B		
		担任・保護者・学校医との連携	⑬⑮	B		
	食育指導の充実	各種ランチの実施（クラスランチ，コースランチ）	④⑮	B		
		献立の工夫（セレクト制，旬の食材の利用，地産地消の推進）	⑮	A		
		NIEを活用した献立の作成（各学年発案のリクエスト献立）	④⑮	B		
生徒 指導部	予防的な生徒指導実践のための，早期段階での情報収集および共有方法の確立	ハートバランスシートや昼休みミーティングを利用した早期段階での情報収集	⑭⑯	A	B	昼食後ミーティングで得た情報を効果的に活用する。 各学年所属の生徒指導部員から学年担当者で情報共有できる方法を検討する。
		収集した情報の活用（生徒の状況の共通理解）	⑭	B		
		学校生活のきまり，マニュアル等の配付，見直し インターネット（ＳＮＳ)安全指導の実施	⑫	B		
	通学指導の充実	公共の場所（電車・駅等）でのマナー向上を目指した登下校指導の実施 災害に対応した臨時下校指導の実施 交通安全指導の実施	⑭	A		
渉外部門 PTA部	計画的な委員会の開催とスムーズな連絡・調整	委員会開催の調整，各委員会の協議内容確認，事務手続きの簡潔化	⑯	A	B	保護者のＰＴＡ活動への参加率向上を図る。 各委員会の事業内容の工夫と見直しを図り，保護者同士がつながりのもてる事業内容を検討する。
		本部役員，学年委員，常設委員同士の連携及び情報交換	⑦	B		
	ＰＴＡ事業内容の工夫と保護者参加率の向上	ニーズに合ったＰＴＡ事業内容の工夫と参加率向上	⑬	B		
		ＰＴＡ行事のホームページ掲載等積極的な情報発信	⑦	A		
	茨特Ｐ連や茨知Ｐ連，全知Ｐ連や関知Ｐ連等研修会への参加と報告及び情報交換	ＰＴＡ諸団体行事や研修会等への計画的な参加と報告及び情報交換	⑯	B		
諸団体部	外部団体主催の行事への参加をとおした本校の教育活動の紹介	ナイスハート，高等学校文化連盟，特体連スポーツ大会等の参加	⑦⑪	A	B	各係や他の校務分掌部との連携を図り，行事の実施時期や連携内容を年度当初に確認する。
	教職員の研修	茨城県特別支援学校教育研究会への積極的な参加	③⑯	B		
舎務部門	学校，家庭との連携，情報共有に努め，生徒の実態や課題に即した指導・支援の充実を図る。	個別の指導計画（自己管理能力評価票）を作成し，学校・家庭と連携した指導・支援	①⑩	B	A	アパートタイム，グループホームタイムの学校との連携やシステムの見直しを図る。 将来に向けて目的を持った有意義な体験をするための検討する。 ①学校との連携方法 ②個々の実施目的の明確化 ③体験希望者の実施基準の設定等
	自治会活動をとおして，交流活動，生徒の共同・協働活動の充実を図り，心のバリアフリーを目指した指導・支援に努める。	・生徒のニーズに即し，協力して活動できる場面として，行事及び活動内容の見直しを図る。	③⑨⑩	A		
		・話し合い活動をとおして，人との関わりを学び，協力する心や思いやりの心を育てる。	⑨⑪	A		
	生活スキル検定，マイタイムを実施し，生活技術の獲得と生活力の定着，自己管理能力の育成を図る。	・生活スキル検定を，計画的に実施し，基礎的・基本的なスキルの定着を図る ・マイタイムを活用し，活動がない日を週１回設定することで，自分で考えて生活する習慣を身に付ける。	④⑩⑮	A		
	職員研修の充実を図り，さらなる専門性の向上を目指す。	指導員としての専門性向上，チーム力向上，コンプライアンス推進に向けた職員研修を継続的に実施する。	①⑯	B		
	生徒の心の動きや変化等を把握し，生徒の心に寄り添った指導・支援に努める。	・連絡会議や日々の申し送り等におけるケース会議を充実させ，全ての指導員が生徒のケースや支援方法について共通理解できるよう情報共有に努める。 ・個別にトーキングを設定することにより，生徒ひとりひとりの課題解決につながるように支援する。	⑬⑭	A		
事務部門	施設の安全と環境美化への取り組み	・危険排除を主としたスピーディな点検方法の作成と日常的な点検の実施により，生徒等の安全を確保する。 ・芝や植栽等の管理計画を立て，気候条件に応じた処置を施して良好な状態を保つ。また，学校全体として整った景観を目指して管理する。	⑫	A	B	施設設備の老朽化対策 開校時設置した設備等が20年以上経過し，経年劣化による故障が増加している。 施設設備の使用頻度や危険性等に応じて，更新・修繕による長寿命化等の判断を行い効率的な保全を行う。
	施設設備の整備計画の見直し	・保有施設設備について，長期的視点に立った維持管理を検討し，効果的な保全ができるよう施設設備整備計画を見直す。 ・各室の使用目的や状況及び転用の可能性を調査し，効果的な使用や今後の方向性に向けた調査を行う。	⑫	B		
	予算管理の適正化	予算配分・・実習計画等を基に，必要物資等の把握により集約調達や見積合せの利用等を行い費用の節減を行う。各校務分掌とのヒアリングを実施し不要予算の削減と必要予算の配分を行い効果的な予算執行に則した配分への転換を図る。 修繕対策・・設備等について経年劣化による故障等が増加してきているため，緊急性・必要性を考慮するとともに修理内容及び範囲などを検討・調整し，必要最小限の修繕対応を図る。 光熱水対策・職員の節約意識の向上や水道料金について，毎日メーターを計測し漏水の早期発見に努める。冷暖房機器の使用にあたり校内統一基準による運用や室内照明を状況に応じて点灯箇所を制限し，節電を行う。	⑫	B		
１年	実態に即した学習をとおして､基礎的学力の定着を図り，達成感や自己肯定感を育てる。	自立活動の視点を各教科に取り入れ､グルーピング，板書や発問の仕方，ワークシート等を工夫し，授業内容の充実を図ることで，「できた」「わかった」という場面を数多く設定した授業を実践する。	①②③④⑤⑥	B	B	入学後の実態把握や各教科のテスト等から習熟度別グループを編成し，学習指導に取り組んだ。実習に関しては事前指導を実態に応じて丁寧に取り組んだ。日誌内容の把握・トーキングタイムの月一回実施等から生徒の相談支援の充実を図ったが，今後は個々人への支援体制はさらに充実させる。
	体験活動をとおして､社会的・職業的自立に向けた態度や規範意識を養う。	校内実習やデュアル型現場実習，短期集中型現場実習などの働く体験の中から，社会的・職業的自立に必要な態度や規範意識の大切さを学ぶ。	④⑤⑥	B		
	家庭や寄宿舎との連携を深め，生徒の実態・課題の共通理解をもち，同じ視点で支援をする。	個別面談，学年便り､日誌の供覧や内容の充実を図り，家庭との連携を密にする。 寄宿舎のフォーカスデータシートを活用し，早期に課題の共有化を図ることで，具体的な支援方法を確認し合って早期解決を行う。	⑦⑧⑨⑩	B		
	食事をとおして，好き嫌いなく，残さず食べる習慣を身に付けるとともに，相談体制を整え精神面のサポートを充実させる。	食べられる量を知り，完食できた体験を積む。残さず食べることを賞賛し，食べることの大切さを知ることができるようにする。（食⇒職の気づき） トーキングタイムを毎月定期的に実施し，生徒の実態把握に努め，生徒の考えや悩みに寄り添い，背景の共通理解のもと支援にあたる。	③④⑬⑭⑮	A		
２年	自己理解を育て，主体的に課題解決に取り組み，社会人として必要な基礎・基本となる学習内容の定着を図る。	習熟度別グループの学習をとおして，板書や発問の仕方を工夫し，生徒の実態や課題に応じた学習を展開し，自己肯定感や自己有用感を育て，挑戦しよう・貢献しようとする心を育む。	①②③④⑤⑥⑨	B	A	自己理解の上での進路選択と心と体の健康管理を進める。 進路選択のための情報提供の充実を図る。トーキングタイムの時間を確保する。
	社会生活・職業生活に必要な知識・技能・態度を身に付ける。	現場実習やジョブスタディをとおして，自立活動の視点から自己理解を促進し，自らの課題を主体的に克服できるようにする。 現場実習をとおして，職業適性や課題を明確にし，個々に応じた進路指導に努める。	③④⑤⑥⑦	B		
	集団生活における好ましい対人関係を養う。	トーキングタイムを実施し，生徒の心身の状態を的確に把握し，指導に生かす。	⑬⑭	A		
	食事をとおして，好き嫌いなく，残さず食べる習慣を身に付け，体力と共に心の安定を図る。	食べられる量を知り，完食できた体験を積む。残さず食べることを称賛し，食べることの大切さを知ることができるようにする。（偏食への指導に努める）	③⑮	A		
３年	自己肯定感を大切にし，新しいことに積極的に挑戦する。	「やってみる」「できた」体験を多く取り入れ，自己肯定感を様々な場面で味わわせることで新たな挑戦への気持ちを育み，積極的に学習活動に取り組める環境を整える。	①②③④⑨	A	B	働き続けるための体の健康と心の安定を図る。 課題に応じた指導計画の充実と支援内容の保護者との共有を図る。
	働き続けるために必要な知識及び技能・態度を身に付ける。	現場実習やジョブスタディをとおして，自己理解を深めながら職業人としての意識を育て，働き続けるための知識や技能，態度を学ぶ機会を設ける。	①②⑤	B		
	トーキングタイムを計画的に実施し，生徒個々の困り感を明確にし，共通理解を図り，的確な支援を行う。	トーキングタイムの記録の供覧をとおして，生徒の抱えた問題に目を向け，支援内容や支援方法を学年全職員で共通理解し，共通した指導感でかかわる。	⑬⑭	A		
	社会自立に向けて生活スキルの向上を図るとともに，社会人として健康的な生活を送ることができる習慣を身に付ける。	家庭・寄宿舎と連携しながら，アパートタイム，グループホームタイムを有効活用し，自己管理能力を高め，社会自立に向けたスキルを身に付ける。食べることの大切さを理解し，自ら健康管理・体力を維持するためにバランスのよい食事をとる習慣を身に付ける。	⑩⑪⑮	B		